

研究のなまえ「若年性骨髄単球性白血病の経験者を対象とした晩期合併症全国調査」

文責：大園 秀一（久留米大学小児科）

どんなことを調べようとした研究ですか？	白血病の一種である「若年性骨髄単球性白血病」という病気で移植などの強い治療を受けた患者さんが、その後元気になっているか、後遺症（後々まで続く別の病気）に苦しんでいないかを調べた研究です。
どんな人に調査しましたか？	「若年性骨髄単球性白血病」という病気にかかって、移植を行った患者さんを治療してくれた先生に「患者さんの今の様子を教えてください。」とアンケートを送って調査しました。
何人くらいからお答えいただけましたか？	全部で 30 人からお答えいただきました。
どんな結果でしたか？	患者さんは治療が終わって平均 13 年が経過し、最年長で 23 歳、最年少で 12 歳の患者さんまでを対象としました。 少なくとも 1 つ以上の晩期合併症を持っている患者さんが全体の 8 割以上と高い割合で健康上の問題を抱えていることが明らかになりました。 合併症別では割合の高いものから、「同年代より身長が低め(53%)」「体重が軽い(53%)」「歯の問題(33%)」「皮膚の問題(33%)」などの順になっており、この他にも様々な合併症が起こることが明らかになりました。 また、2 歳未満で病気を発症すると肺の合併症の率が高くなる、2 回以上の移植を行うと甲状腺の働きが悪くなるなどの合併症を起こしやすい要因が明らかになりました。
どんなことが分かりましたか？	若年性骨髄単球性白血病の患者さんは、平均約 2 歳で発症し、ほとんどがもの心つく前に移植を完了し成長してしまうので、小学生に上がる頃には一見すると問題がないように見えます。しかし、今回の調査により、半分以上の高い割合で、小学生以降に健康上の問題を抱えている事が分かりました。
この研究は小児がん患者さんとどんな関係がありますか？	実際若年性骨髄単球性白血病の患者さんは多くないので、晩期合併症について、患者さんを直接診療する医師向けに現状や診療にあたっての注意点について説明をしました。今回の研究を機会に、医師は患者さんの合併症リスクにより注意が向き、患者さんはきめ細かい長期フォローアップを受けられると考えます。
この研究はこれからどう役に立ちますか？	若年性骨髄単球性白血病の患者さんの長期フォローアップにおいて、低身長をはじめとした晩期合併症の診療に役立ちます。
関係する他の専門医、診療科は？	内分泌・代謝内科、歯科、呼吸器内科、循環器内科、心療内科など
詳しく知りたい場合のリンクは？	https://doi.org/10.1002/pbc.30126